

	年		組		番		名前
--	---	--	---	--	---	--	----

教材 1-C-(1)の解答 古代から中世までの政治の様子

次の（ア）～（セ）の説明はどの時代のものであるかを、【表】の中の①～⑨から選び、番号で答えなさい。

【表】

① <small>じょうもん</small> 縄文	② <small>やよい</small> 弥生	③ <small>こふん</small> 古墳	④ <small>あすか</small> 飛鳥	⑤ <small>なら</small> 奈良	⑥ <small>へいあん</small> 平安	⑦ <small>かまくら</small> 鎌倉	⑧ <small>なんぼくちよう</small> 南北朝	⑨ <small>むろまち</small> 室町
---------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	------------------------	--------------------------	--------------------------	------------------------------	--------------------------

【政治の様子】

- (ア) 一族の長は太政大臣だいじょうだいじんとなり一族を朝廷の高い役職や国司につけた。
- (イ) 位を幼い皇子おうじにゆずって上皇じょうこうとなってからも、摂政せつしょうや関白かんぱくを押さえて政治を行い続けた。
- (ウ) 大王おおきみを中心に、豪族ごうぞくは先祖を共通にする氏という集団をつくり、代々決まった仕事で朝廷てうていに仕えた。
- (エ) 天皇であるおばを助け、摂政せつしょうとなり天皇を中心とする国家を作ろうとした。
- (オ) 将軍が直接支配する勢力は少なく、財政の基礎も弱かったので、太政大臣になるなど朝廷の権威も身につけた。
- (カ) 天皇を中心とした新しい政治を目指したが、少ない恩賞おんしょうに対して武士が不満ふまんを持った。
- (キ) 中央には侍所さむらいどころ・問注所もんじどころ・政所まんどころを設け、地方には守護しゆごと地頭ぢとうを配置して支配を強めた。
- (ク) 律令に基づいて政治を行う律令国家をつくるために、大宝律令たいほうりつれいを定めた。
- (ケ) 仏教は国家を守り、政治を安定させる力を持つものと考えられ、地方に国分寺こくぶんじ・国分尼寺こくぶんにじが建てられた。
- (コ) ゆるみ始めた律令政治を立て直すため、都を京都に移し、地方の国司の不正を厳しく取り締まった。
- (サ) 娘を天皇のきさきとし、その子を天皇として、自分は摂政せつしょう、関白かんぱくという職について政治を動かした。
- (シ) 戦国大名は城を築いて城下町をつくり、領国支配のため分国法ぶんこくほうという法を定めた大名もいた。
- (ス) 力の強いむらは力の弱いむらを従えて、くにとよばれる政治的にまとまりをもった小国こくにとなった。
- (セ) 京みやこに六波羅探題ろくはらたんていをおいて、朝廷を監視し、西日本の御家人を統制した。

(ア)	(イ)	(ウ)	(エ)	(オ)
⑥	⑥	③	④	⑨

(カ)	(キ)	(ク)	(ケ)	(コ)
⑧	⑦	④	⑤	⑥

(サ)	(シ)	(ス)	(セ)
⑥	⑨	②	⑦

それぞれの説明文を、教材6-①の表にあてはめて記入してみよう。
政治の様子の変化を、時代の流れの中でまとめることができます。